
道化役に疲れ果てたレイージ

いちは

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

道化役に疲れ果てたルイージ

【Nコード】

N6850L

【作者名】

いちは

【あらすじ】

ルイージが主人公の短編です。

道化役に疲れた疲れた疲れ果てた。
もう嫌だ、絶対に嫌だ。

忌々しい、兄さんの履き古した靴！！
弟の僕は、お下がりしかもらえない。
あの靴、滑って滑ってしょうがない。
せっかく鍛えた跳躍力も、あの靴じゃ危なっかしい。

ピーチ姫。

あの小憎たらしいビッチ。

お前なんか、ピーチ姫じゃなくて、ビッチ姫だ。

兄さんをたらしこんだ女。

あいつがクツパにさらわれたからって、
どうして僕まで兄さんを手伝わなきゃいけなかったんだ。

兄さんときたらビッチ姫にご執心で、
寝ても醒めても彼女のことばかり。

母さんの葬式にも顔を出さなかったあんな女の、
いったいどこが良いって言うんだ！？

ビッチビッチビッチ！！

僕はもう、道化なんかじゃないぞ。

あの女、ビッチビッチのビッチ姫を襲うことに決めた。
幸いにも、兄さんは今日は自慢のカートに乗ってゴルフに行っている。

夕方からはテニスと言っていた。
やるなら今日だ、行くなら今日だ。

僕はカートに乗り込んだ。

いざという時のために、バナナの皮をポケットに入れた。

ビッチの家まではカートで一時間。

僕は長渕剛のCDを入れた。

お気に入りの『Captain Of The Ship』を聴きながら、

アクセルを踏み込む足にも力が入る。

決めるのは誰だ、やるのは誰だ、行くのは誰だ。

そう、僕だ。

僕が今日、ビッチをひいひい言わせてやるんだ。
できるさ、僕にだって。

ビッチの家に着いたのは、もう日暮れだった。

僕の本職は配管工、裏口を外すことくらい造作ない。

家に入ると、甘いバラの匂いがした。

ビッチの奴、お高くとまりやがって。

僕は、ビッチの驚愕の表情を思い浮かべながら足を忍ばせた。
思わず知らず、表情がにやついてしまう。

下半身のクリボーが、スーパークリボーになってやがる。

ビッチはどうやら二階にいるようだ。

物音が二階から聞こえる。

階段は、一気にジャンプして上った。

着地点で若干滑ったがノープロブレム。

ビッチの部屋から声が聞こえる。

ん？

二人？

男と二人？

兄さん、テニスとか言いながら、ビッチのところへ……。頭の中がカツと熱くなって、僕はドアを蹴り開けた。裸のビッチが何事か叫んで、布団を体に巻きつけた。兄さんという……。あれ？ 兄さんじゃない……。なんてことだ、マンマ・ミーア！！

僕は我にかえって逃げた。
とにかく逃げた。

ビーダッシュで逃げた。

カートに乗り込むと、後ろからビッチの叫び声が聞こえる。
「アイツを切り捨てて、リンクー！！」

緑色の服を着た男が出てきた。

手には剣を持っていた。

なんてことだ。

殺される。

僕はアクセルを思い切り踏み込むと同時に、ポケットに入れたバナナの皮を放り投げた。

バックミラーごしに、緑の男が滑って転んだのが見えた。

やっぱり、真面目に生きよう。

道化役でも良いや。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6850/>

道化役に疲れ果てたルイージ

2011年1月16日01時21分発行